

中国雲南省姚安県地震・緊急救援委員会

災害発生:2000.1.15、雲南省楚雄イ族自治州姚安県でM5.9、M6.5の地震

救援期間:2000.1.31～2000.3.31

1月15日午前6時(日本時間同7時)に発生した地震により、約120,000人(約90,000世帯)が、氷点下の屋外で避難生活を続けている。中国へ語学留学中のぐるうぶ“えん”の大西陽治氏が現地に入り、被害の状況を報告。被害の大きさを鑑みて、1月31日に委員会を立ち上げ、広く募金を呼び掛け、その後神戸華僑総会を通じて学校再建費用の一部として支援を行った。

救援募金総額:¥150,000 (15万円)

【事務局より】

1月15日午前6時(日本時間同7時)、中国雲南省楚雄イ族自治州姚安県に発生したM6.0の地震により、約120,000人(約90,000世帯)が、氷点下の屋外で避難生活をしていることが伝えられています。

この被害に対して、KOBEを中心とするNGO/NPOやボランティア団体などで緊急救援実行委員会を立ち上げ、募金を呼びかけた結果、3月末現在で募金総額150,839円となりました。今回も、神戸華僑総会を通じて、15万円を寄付させていただきました。現地の倒壊した学校の再建計画に充てられることとなります。

最終の報告書は以下に掲載してあります。

みなさまご協力ありがとうございました。

■緊急救援委員会最終報告



留学生大西
想建学校

←中国留学中に雲南省の地震を知り、中国で募金活動を行った大西さん。学校再建に対する募金活動を地元新聞社に報道された。

2月に第2報を出して以来ご無沙汰しておりますが、3月末現在で募金総額150,839円となりました。今回も、神戸華僑総会を通じて、15万円を寄付させていただきました。現地の倒壊した学校の再建計画に充てられることとなります。

また、中国に留学中で、被災地にも入ってもらった大西陽治さん(ぐるうぶ“えん。”)は、被災地入り後も自分の通う学校等で、「一元募金」運動を展開して約4,000元を集めました。(一元約13円)

以下、現地大西さんからのレポートを紹介します。

募金のお金は、ゴールデンウィークにの姚安県教育委員会の方に直接手渡してきました。被災地では、ゆっくりではありませんが、復興しております。村全体が被害を受けて、他の場所に新しい村を作っていました。しかし壊れたままの家も目立ちました。また、テント生活をしている方もいました。

(ほとんどのひとは農民なので、食には困ってはいないようです。学校は臨時校舎を建ててそこで勉強していました。案内してくれた教育委員会の人も家が壊れたままで、まだ手つかずのよう

です。田舎なので、都会ほど急ピッチに出来ていないのではないのでしょうか？田舎の被災地であるだけに注目度が低いのでしょうか。しかし、前回の訪問時と比べて、みなさんの顔が明るくなりました。



姚安県教育委員会

トルコ・台湾・中国・ベネズエラ・モザンビーク・モンゴルと災害が相次ぐ中、皆様のご協力ありがとうございました。今後も国内外を問わず、今回の北海道有珠山噴火など日本での自然災害にも、即座に対応をしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いします。また、すでに登録済みの方もいらっしゃると思いますが、「自然災害メールリスト(仮称)」を作成しております。登録をご希望の方は、e-mailにて事務局までご連絡下さい。また、FAXとe-mailか、だぶって送られている方も、申し訳ありませんが事務局までご連絡下さい。

■事務局より(2月16日)

2月5日、6日の二日間、神戸・南京町にて街頭募金を行いました。この日はちょうど中国での旧正月で南京町は「春節祭」をしておりました。そこで、中国雲南省地震の募金を呼びかけ、この二日間で26,595円の募金を頂きました。南京町の皆様、募金をして下さった方々、本当にありがとうございました。

ました！深謝!!

また、山形の酒田市から提供されたお米をチャリティーで販売し、その収益も雲南省地震の支援金として募金していただきました。重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました!!!

【現地の様子】

地震後、現地入りした中国へ留学中のぐるうぶ“えん”の大西陽治さんからの報告を皆様に紹介いたします。

○姚安県地震対策本部にて

姚安県の被害状況

- 死者3名
- 重傷者95名
- 倒壊家屋11万棟
- 家のない人々6万2千人

【官屯地区(大村)】

- 14件、74人の人々が被災し、ほとんどの家が半壊で状態
- 全員が仮設住宅で生活をしている。
- 学校は、一つの校舎だけが残り、あとはボロボロの状態になっていた。
- 軍により、急速な仮設校舎づくりが行われていた。
- 先生達がキャンプで炊き出しを行っていた

【中村地区】

- 175件、714人が生活している村
- 1993年8月13日、M5.6の地震で被害を受けている地域
- ほとんどの住民が近くでテント生活をしている。
- ここでも軍が入って仮設住宅・仮設校舎の建設を行っていた。
- 「春節祭までに168戸の仮設を建設させる」(村長談)
- 今回で2回目の地震被害のため、村ごと移動し、今まで住んでいた地域は畑にすること。
- ほとんどの人が農業を営んでいたが、この地震により被害を受け、食料に困っている様子だった。
- 「医療の方は問題ない」ということだったが、テント生活や仮設の状況から見て問題があると感じた。

以上のような報告が入っております。



建設された仮校舎と教員用テント(撮影:大西陽治)

■1月31日<第1報>

<現地入りした大西陽治より>

速報にてお伝えしましたが、語学留学中の大西陽治(ぐるうぶ“えん”)より第1報が入りました。

1月15日午前6時(日本時間同7時)、中国雲南省楚雄イ族自治州姚安県に発生したM6.0の地震により、約120,000人(約90,000世帯)が、氷点下の屋外で避難生活をしていることが伝えられています。

昆明からバスで2日走ったところの姚安県の中村に入りました。この地区は、1993年に起きた地震でも被害を受けて、今回で地震の被害を受けている地域でもあります。

<姚安県中村>

人口715人、175世帯の小さな村で少数民族が住む地域。被害を受けた地域は農村地帯であり、食糧をはじめ、医療・衣服の不足はない。

土レンガを積み上げて建てられている家がほとんどで、しかし家は半壊が多く、荷物を取り出すことは出来る。

政府や人民軍が避難用のテントを建てている。中には、被災者自身が建てている小屋なども見られた。春節(旧正月)の2/5までに政府は仮設を建設する、とのこと。

また、中村には学校が一つあり、今現在仮設校舎を建設中。

またベネズエラ水害・緊急救援委員会同様、皆様から寄せられた支援金の内、全体の15%を限度として事務局運営費および管理費に充当させていただきますので、ご了承下さい。

[このページのトップへ>](#)



構成団体:神戸華僑総会・コープこうべ・被災地NGO協働センター・ひこね国際交流会VOICE・兵庫県国際交流協会

事務局: 〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10 被災地NGO協働センター内
Tel 078-574-0701 Fax 078-574-0702 <http://www.pure.ne.jp/ngo/>